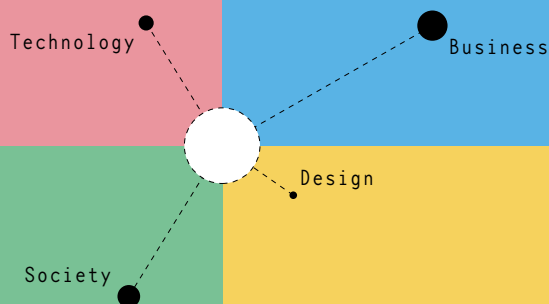


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp



No problem

問題があるのにNo problem

英語の決まり文句の1つに「No problem」がある。これを口癖のように連発する人がいる。no problemを文字どおりに直訳すれば「問題がない」となるのだろうが、実際に言葉が使われている状況を観察すると、何もなくて平穩というのではなく、何か問題があるのに、それを「問題だと思わない」という意味のようだ。

大修館のジーニアス英和辞典でno problemを引くと、「お安いご用です」「かまいませんよ」とある。この訳は雰囲気がよく出ている。Collinsの英英辞典の説明によると、会話で使う表現で、「相手が望むことを行うこと、あるいはできること」とある。1人で心配して、あれこれ考えているときに、相手がno problemと言ってくると気分が落ち着く。人を安心させる言葉である。

善悪は半分ずつ起こる

世の中では、よいことが起こるが、一方で悪いことも発生する。その中間を平均と考えると、よいことと悪いことが平均を中心に半分ずつ起こる。ちょうど中間を平均と定義したのだから、当然ながら半分ずつの善悪が起こる。昔から善悪は相半ばするという。

よいことばかりが続く人生はない。同様に悪いことばかり連続するわけではない。人によって平均の意味する内容は同じではないけれども、よいことが起こると同時に悪いことも起こる。

うまくいっているときには何も考えなくて済む。ところが一転して悪いことが起こった場合には、いろいろと考えなければならぬ。私の大学時代の恩師である藤田宏先生(数学)は「歯が痛くなると、原因を追究したり、歯医者に行くスケジュールを考えたり、いろいろと考えるから疲れるのだ」と言われた。しかも考えるという行為が、いわば自動的に行われてしまう。悪い局面では、「考えるな」と言われても無理である。

善悪は会社にも起こる。うまくいっているときには、社長さんは楽である。ところが困難な局面になると、社長という役割は実に苦しい。いろいろな問題を考える必要がある。その対策を編み出さなくてはならない。さまざま局面で判断を迫られる。

修羅場で男が決まる

昔の話。私の先輩が就職活動をしているときに、鉄道会社を訪問した。その会社の幹部が、仕事に直接関係しないような教養書をオフィスで読んでいた。それでよいのかと尋ねると、「我々は事故が起こったときが本番、男は修羅場で決まる」という答えが返って来たという。これは以前の話だから今の鉄道会社では様相が違うかもしれないが、確かに世の中には悪い局面で活躍する人がいる。

火事は街にとっては悪であり問題である。しかし、消防士にとっては仕事の対象だ。虫歯は私の大問題であるが、私の虫歯は歯医者さんの仕事の対象である。病氣と医者との関係、裁判と弁護士も同じように考えられる。

会社が順調に売り上げを伸ばしているときには、社長稼業は楽だが、ある意味では腕の見せ場がない。世の中には会社を再建する名人と呼ばれる人がいる。そのような名人には、順調な会社は退屈かもしれない。

私自身は鉄道会社でもなく、消防士でも歯医者でも医者でも弁護士でもない。ましてや再建の名人でもないのだから、あえて悪い局面に飛び込むことはしない。それでも人生には善悪が起こるので、嫌でも悪い局面に遭遇する。そのようなときは、「男は修羅場で決まる」と思うことにしている。もっとも、この表現は普風なので、いまでは「女も決まる」と付言しないとイケない。

気楽に行こう

私の知人の中にも元気な人がいる。ある会社の社長は「不景気なときこそ、我が社が儲けるチャンス」と元気に飛び回っている。世の中では不景気は悪と決まっているが、この社長にとっては善なのかもしれない。そこまで発想を逆転するのは、凡人の私には無理だ。

それでも多少の工夫はできる。まず悪い局面では考え過ぎないことだ。人間は不思議な力を持っている。目の前に問題があると解決しようとする。その考える力は自然に湧いてくるので、無理に考えて疲れることはない。

目の前に問題があるときに、それを問題と見なさずにno problemと言い切るのは1つの生活の知恵である。会話で使うだけでなく、自分に向かって声を掛けてもいい。悪い問題から逃げるのではない。考える対象とするのだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp